

平成24年5月31日（木）に、ホテルポートプラザちばにて、平成24年度千葉県バイオ・ライフサイエンス・ネットワーク会議総会・研究成果・事例報告会を、横浜・神奈川バイオビジネス・ネットワークの後援を得て開催しました。参加者は73名で、アカデミア、化学、製薬・医療、食品、エンジニアリング、金融・調査機関、公的研究機関、自治体、ベンチャー等、バラエティーに富んだ方々にご参加いただきました。

1 総会

本会議の会長である（公財）かずさDNA研究所 大石理事長、行政機関代表として千葉県商工労働部 佐藤部長のあいさつに続き、事務局である千葉県商工労働部産業振興課 田村課長から平成23年度事業報告、平成24年度事業計画の説明を行いました。その後、前日の5月30日にかずさDNA研究所が公表した「トマトの全ゲノム解読に世界で初めて成功」のニュースについて、同所の山本所長が説明しました。



（かずさDNA研究所 大石理事長）



（千葉県商工労働部 佐藤部長）



（千葉県商工労働部産業振興課 田村課長）



（かずさDNA研究所 山本所長）

2 研究成果・事例報告会

引き続き、「千葉発 新たな『医療と食』の創造に向けて」をテーマとして、以下の5つの課題の課題で研究成果・事例報告会を行いました。

(1) 地域イノベーション戦略支援プログラム（かずさ・千葉エリア）進捗報告

「先端ゲノム解析技術を基礎とした免疫・アレルギー疾患克服のための産学官連携クラスター形成」

かずさDNA研究所 副所長 小原 收

地域イノベーション戦略支援プログラム（かずさ・千葉エリア）の進捗報告として、かずさDNA研究所と千葉大学や県内企業等と連携し、花粉症や関節リウマチなどの免疫アレルギー疾患の克服に向けて、マイクロデバイスシステムの構築や疾患遺伝子・治療効果を予測するバイオマーカーの検索を行っている「先端ゲノム解析技術を基礎とした免疫・アレルギー疾患克服のための産学官連携クラスター形成」プロジェクトについて紹介しました。

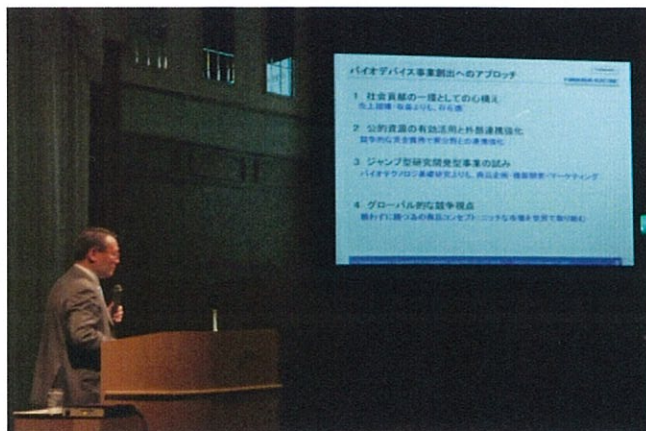


(かずさDNA研究所 小原副所長)

(2) 「バイオデバイス事業を推進する古河電工の取り組み」

古河電工株式会社 生産技術部 バイオデバイス事業チーム長 徐 傑氏

「バイオデバイス事業を推進する古河電工の試み」として、地域イノベーション戦略支援プログラム（かずさ・千葉エリア）における「レーザー光により細胞を調べる実験装置」（セルソーター）の開発を中心に、同社のバイオデバイス事業への取組みをご紹介いただきました。

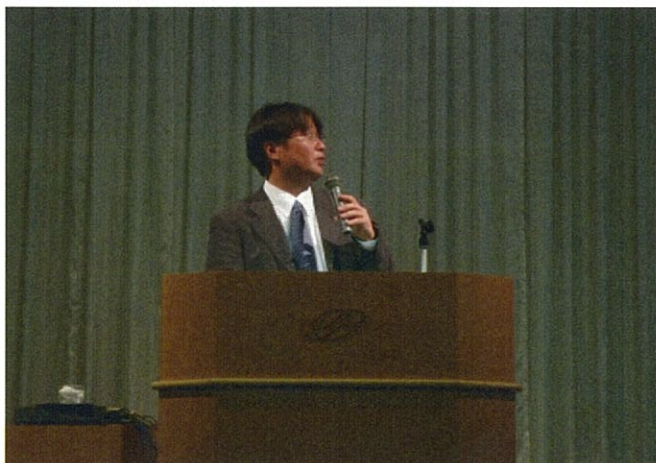


(古河電工 徐氏)

(3) 「新規三次元細胞培養システム”Cell-able™”の紹介と適用事例」

株式会社トランスパレント 技術担当取締役 池谷 武志氏

世界最大の患者由来がん細胞バンクを持つ米国企業と連携し、独自技術により構築した三次元細胞培養システムと、この技術を用いた次世代の抗がん剤や治療技術の研究開発支援システム・サービスを主とした「Cell-able™」についてご紹介をいただきました。



(トランスパレント 池谷氏)

(4) 「植物の力を新たなセルフメディケーションにー心のケアと口腔ケアから全身健康ー」

株式会社常磐植物化学研究所 研究開発部 リーダー 嶋田 典基氏

虫歯や歯周病を予防する新たな素材として「ゲッケイジュ葉エキス」のご紹介と共に“口腔の健康”から“全身の健康”へ、ガム、飴、ハミガキ粉など様々な食品への応用についてご提案をいただきました。また、近年増加している精神疾患対策として、天然ハーブであり抗不安作用が期待できる「ラフマ葉エキス」についてのご紹介をいただきました。



(常磐植物化学研究所 嶋田氏)

(5) 「バイオ産業技術支援センターの業務紹介」

かずさDNA研究所 小原 収

かずさ DNA 研究所の研究成果、クローンなどの成果物、研究過程で蓄積した各種技術、ノウハウ等を社会に普及・還元することを目的として、民間企業や公的機関向けの支援組織「バイオ産業技術支援センター」のサービスを紹介しました。

3 まとめ

参加者の皆様からは、“進めている研究テーマでコラボしたい”、“ものづくりにて共同研究を行いたい”等々の反響をいただき、盛況のうちに終了することができました。



(発表者との名刺交換)



(会場のようす)

最後になりますが、事務局として、千葉県からバイオ研究の実用化が継続的に生まれるよう、いろいろな企業連携に繋がるような企画を運営していく所存です。

今後とも、会員の皆様のご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。 以上